

困難に立ち向かう力

全国高校総体中止，全国高校野球選手権大会中止，全日本吹奏楽コンクール中止・・・部活動をやっている多くの高校生の力を試す場が失われました。

また，今年開催予定の「かごしま国体・全国障害者スポーツ大会」の開催も見送られました。3年生にとっては，高校生活最後となる大きなイベントがことごとく無くなった中，「かごしまメモリアルマッチ2020」や通信大会等が，関係者の努力により実施されることとなりました。

学校としても3年生のために出来ることとして，3年生の送別や区切りの大会で使えるようにと，「奨励費」を労いのことばを添えて各部活動生徒に渡したところです。私も本日までに実施された各部活動のメモリアルマッチや校内試合を応援しましたが，終わったあとの生徒は皆どこかしら満足げであったように感じました。

3年生は，それぞれの形で区切りをつけられたのではないかと思います。今後も，野球や陸上競技，文化系の部活動において区切りの場があるところですが，皆やりきって区切りとして欲しいと願っています。

生徒たちにとって，部活動をやる一番の意味は何でしょう。

悔しさをかみしめて，一所懸命にプレイしている生徒たちの区切りの場を見ているうちに，それは「**困難に立ち向かっていく力を身に付けること**」ではないかと思うことでした。

世の中が豊かで便利になり，生活にゆとりが出てきたことによって，子どもたちの前に立ちふさがり，行く手を阻むものが少なくなったとよく言われます。昔に比べると，今の子どもは恵まれ，親や社会から見守られ順調に歩んでいるかのように見えます。しかし，貧しさや不便さとは異なる困難が，今，生徒たちの目前に立ちふさがっています。

生徒たちはこの困難にどのように立ち向かうのでしょうか。

試合やコンクールで立ち向かう相手は，「○○高校」や「○○高校の○○さん」でしたが，これから自分の前に立ちふさがるのは自分自身となることもあります。自分の意欲や勇気のなさ，続ける力や能力の不足が自分の行く手に立ちふさがるのです。

全ての生徒が「新型コロナウイルス」という目に見えない困難も含めて，これらからの人生で出会うであろう困難を一つひとつ逃げずに克服してもらいたい。それこそが，「**一人前**」(ひといまえ)になったという成長の証であるはずで